



海外稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

今年3月のブラジル稲門会創立70周年記念式典・祝賀会において、第6代会長の指名を受けました、村信政幸と申します。当会の会員は主にサンパウロ圏に暮らす移住者・長期滞在者・駐在員・元留学生で構成されています。国内にお住まいの皆さま、ぜひ稲門会へご入会ください。年会費はありません。毎年3月に総会・懇親会を開催しています。

そして日本・世界でご活躍中の皆さま。気候が温暖で1年のうち10カ月は半袖・短パンでゴルフのできるサンパウロ。TEMAKI（手巻きずし）や

YAKISSOBA（焼きそば）はすでにブラジルの国民食。120年近い日本人移民の歴史から日本人に対する信頼には絶対的なものがあります。「こんな住みやすい所はないね。もう少し治安が良ければ最高だね」とは日本人同士でよく聞かれる会話です。いい所ですよ。ぜひ一度ブラジルにお越しください。（日本が6年ぶりの国賓として、ブラジルのルーラ大統領を東京に迎えた日にこの原稿を書く）

村信政幸（1978年文学）
連絡先 brazil.tomonkai@gmail.com

会員からのメッセージ

当会はブラジル永住の方々と駐在・短期滞在者が気軽に交流できる会となっており、三田会との野球・テニス・ゴルフ対抗戦は毎年盛り上がりです！ 昨年8月にサンパウロの野球スタジアムで開催された野球早慶戦では、たくさんの校友の方々が応援に駆け付けてくれました。試合の後は昼食会へ移動し、両校参加者の家族も交えて懇親を深めています。

川名光太郎（2008年商学、10年スポーツ研修）

私が生まれる前に早稲田を卒業された大先輩から、息子や娘と同年代の後輩の方まで、当会では幅広い世代・属性の会員が公私にわたり、和気あいあいと交流しています。また、当地三田会ともゴルフ、野球、テニスなどの対抗戦を通して一年中活発に交流しており、こちらでの出会いもビジネスにプライベートに大いに生かされていると感じています。長期・短期問わず、ブラジルへお越

しの稲門の方は、ぜひお気軽にご参加ください。
浜野嘉嗣（1995年商学）

2025年3月8日、サンパウロのニッケイパレスホテルにてブラジル稲門会創立70周年記念式典・祝賀会が開催。戦後の海外雄飛で、船でブラジルに來た諸大先輩方から、下は30代まで、元気いっぱいの駐在員の卒業生や、留学生として早稲田で学んでブラジル社会で活躍されている日系3世、4世の卒業生が一堂に会しました。脈々と受け継がれる早稲田の精神・スピリットを感じられる、こちらまで元気になるような素晴らしいお祝いの席となりました。ここで一首。
「かくまでも 水を選ばぬ 早稲の田の 終ぞ忘れぬ 久遠の理想」

林 由美子（1991年法学）

日本にいれば大学時代の友人と会おうと思えば会えますし、仕事や趣味の場などで新たに校友に出会う機会がありますが、国外に住んでいるとなかなかそうはいきません。その点、日本から見て地球の裏側にあるブラジルで、共通のバックグラウンドを持つ人たちと交流できる稲門会での出会いは貴重であり、心のよりどころです。共通の話題で盛り上がりたい、在ブラジル校友の皆さん、ぜひご連絡を！

近藤祥弘（2001年法学）

ブラジルは南米大陸最大の国で、多種多様な民族が共存する中、移民として渡伯した先人の方々が日本人の信用と文化を根付かせてこられました。その中に多くの早稲田マンがいたことは言うに欠かせません。ブラジル稲門会はその



2025年3月8日に開催した、ブラジル稲門会創立70周年記念式典・祝賀会

ブラジル稲門会について

諸先輩方が築き上げてきた「心のふるさと」であります。現在は駐在員の方々と結婚を機にこられた方々、起業しにこられた方々を加えて約80人の大所帯です。日伯交流記念として早慶野球部が3度来伯し早慶伯戦を披露、グリーククラブのブラジル公演など、現役学生諸君との交流もありました。大先輩から現役学生まで幅広い層とブラジルで出会い、喜怒哀楽を共にし、「現世を忘れぬ 久遠の理想」を語り合う——ブラジルにいて、より早稲田を感じることができます。
「ああ夢の世や夢の世や」1991年1月、23歳の時に2年間の契約で日本から一番遠い国ブラジルに来て以来、公私共にさまざまな紆余曲折を経て、「今は三歳のその昔」どころかはや35年の月日がたちました。「運命の悪戯か、浮き立つ雲にさそわれて一人旅立」ったブラジルでもやはり、「学びの庭は、早稲田なり」（「人生劇場」の口上より）。
石岡紳一郎（1990年教育）

ブラジルの魅力

た野菜も簡単に手に入るほど、日系文化が根付いています。
高野愛美（2011年国際教養）

（上）世界遺産イグアスの滝

（下）白亜の砂丘。世界遺産のレンソイス国立公園



南米大陸の約半分を占め、日本の国土の約22.5倍もの広さを誇るブラジル。この広大な国土には、多様な地形や豊かな文化が織りなす魅力が詰まっています。

最大の魅力は、「地球の肺」とも称されるアマゾン熱帯雨林を擁する雄大な自然です。アルゼンチンとの国境には世界最大級のイグアスの滝があり、北東部のレンソイス・マランヤンス国立公園には、雨季になると砂丘に無数の水たまりが現れる幻想的な風景が広がります。

もう一つの魅力は、多様な人種が共存する社会と温かい国民性です。先住民、白人、黒人が古くから共生し、世界各国からの移民を受け入れてきた歴史があるため、誰に対しても寛大で親しみやすい雰囲気根付いています。週末には家族や友人と集まってバーベキューを楽しむなど、陽気でお祭り好きな国民性も特徴的です。

さらに、ブラジルは世界で最も多くの日系人が暮らす国であり、日本と深いつながりを持っています。サンパウロの朝市では白菜やゴボウといっ

2024年8月、野球早慶戦

